

不耕作地を活用して生産した特別栽培米を地域に販売していく。

事業者名	畛テクノリンク(株)
所在地	倉敷市玉島八島264-2
主な業種	給食調理事業
事業概要	食品に携わる事業者として、新たに農業部門を新設し、米や野菜作りに取り組む。農地は、個人所有地及び不耕作地を活用。生産物は、農薬や肥料の使用を低減し、特別栽培農産物として地域店舗で地域の方々に対象に販売する。
支援機関	玉島商工会議所



農林水産省新ガイドラインによる表示	
特別栽培米	
節減対象農薬：栽培期間中不使用	
化学肥料（窒素成分）：栽培期間中不使用	
栽培責任者	〇〇〇〇
住所	〇〇県〇〇市〇〇〇〇
連絡先	TEL 〇〇-〇〇〇-〇〇〇
確認責任者	△△△△
住所	〇〇県〇〇市〇〇〇〇
連絡先	TEL 〇〇-〇〇〇-〇〇〇
精米確認者	◇◇◇◇
住所	△△県△△市△△△△
連絡先	TEL 〇〇-〇〇〇-〇〇〇

（特別栽培米の表示例）

農薬・化学肥料を使用していない場合…

節減対象農薬：栽培期間中不使用
肥料：栽培期間中不使用

と表示されている

出典：農林水産省 特別栽培農産物に係る表示ガイドライン

お米をはじめ食材費の高騰は事業経営の収益にも影響を受けるほど深刻な状況です。

主食である米については、2023年の猛暑により、翌年の新米の入手が難しくなり、米価格が上昇の上、品薄状態が発生しています。農林水産省もそのうちに相場が落ち着くと予想していましたが、米価格はさらに上昇し、政府流通米を放出するなどの対策を行ってきましたが、現在も食生活における混乱が続いています。加えて、全国の稲作農家の約6割が70歳以上であり、また7割が後継者なしという統計もあります。全国的に不耕作地が増加し、主食用の米の生産量は減り続けていると言われています。このような社会の背景から、今後も給食調理事業に直結する食材料の不安定な供給や価格の高騰が続けば事業の継続にも影響を与えると思います。これまでの個人的に先代からの田畑で米や野菜を作ってきましたが、近隣においても不耕作地が増え、後継者不足による小作の依頼が増えています。しかし、これまでの個人的な小規模農業では限界があり、今後は、小作農地を増やししながら組織で行う農業事業の必要性を感じました。その生産についても、農業の自然循環機能の維持増進を図り、かつ生産性の向上を目指した組織としての事業経営としての農業生産事業への展開が必要だと考えました。

収穫する生産物の栽培方法は、農林水産省のガイドラインによる「特別栽培農産物」に挑戦していきたい。

法人として、小作農地を広げながら収穫した農作物を地域に販売していく農業生産事業ですが、収穫する生産物の栽培方法においては、農林水産省のガイドラインによる「特別栽培農産物」に挑戦していきたいと考えています。これは、生産の原則として、「農業の自然循環機能の維持増進を図るため、化学合成された農薬および肥料の使用を低減することを基本として、①土壌の性質に由来する農地の生産力を発揮させる②農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した栽培方法を採用して生産する」というもので、「特別栽培農産物」の基準については一定の基準があり、商品としての米に農林水産省新ガイドラインによる表示として「特別栽培農産物」の表示ができます。また、「特別栽培農産物」のメリットとしては、①環境保全型農業の推進②作る人・食べる人・周りの生き物に優しい③持続可能な農業の推進につながるなどがありますが、デメリットとしては、手間がかかり、生産量の減少が予想されます。そこで、天然有機質肥料や酵素などを組み合わせることで収穫量の減少を抑え、自然味溢れる米や野菜をできる限り収穫していきたいと考えています。

特別栽培米としての米作りに挑戦し、収穫した米には更に商品としての付加価値を加え、地域に販売していきたい。

稲刈りにより収穫した米を乾燥する工程において使用する米乾燥機については、従来の温風式乾燥機ではなく、遠赤外線式乾燥機による乾燥、籾摺り、袋詰めの一連の機械の導入を計画しています。従来の灯油を燃料とした温風乾燥と違い、電源による遠赤外線方式を採用することで収穫後のもみ殻付きのお米を早く乾燥させ、籾摺り機では、もみ殻を除去した玄米の不良米を選別し、計量器では、選別された玄米を30kgごとにスムーズに袋詰めすることで、天日乾燥に近い仕上がりの玄米ができ、炊きあがりには自然の甘さが増すなど期待ができます。また、袋詰めした玄米の出荷まで保存方法について、常温保存ではなく、低温で保管するための保冷庫の導入を計画しています。出荷直前まで保冷庫で保管することで、低温での保管環境のもと、害虫予防や玄米の鮮度を保つことができます。このように収穫した生産物を出荷するまでの過程においては、商品として付加価値の追求し、炊きあがりには自然な甘みのあるお米を消費者へ届けたいと考えています。法人として単に農業生産事業に展開するのではなく、生産過程においては、農業における化学肥料の問題や天然有機肥料の効果を目指す特別栽培農産物への「こだわり」と、収穫した生産物を出荷するまでの過程においては、商品として付加価値の追求への「こだわり」を意識しながら、安定的な事業収益を目指し、継続的な事業運営につなげていける農業を目指します。